

スポーツ・武道実践科学系

氏名 あお き とおる 青木 竜 助教



主な研究テーマ

サッカーの競技力向上に関する研究

平成22年度の研究内容とその成果

2010年南アフリカワールドカップにおいて日本は、予選リーグ2勝1敗でベスト16進出という結果を残しました。日本サッカー協会の2010年南アフリカワールドカップテクニカルレポートによると、その要因は強固な守備組織を形成し全員で攻守にハードワークをするという戦術を用いたことでした。しかし、2015年に世界のトップ10入りを目指す日本サッカーは、強固な守備組織を形成し、ゴールを守るだけの守備的な戦術を用いたサッカーだけではなく、攻撃的なサッカーをしていく必要があります。今大会で上位に進出したチームは、守備をしながらも次の攻撃の準備をしており、攻撃と守備の一体化がなされていました。強固な守備組織をカウンター攻撃だけで突破することは難しく、意図的にボールを動かし相手の守備を崩していくポゼッション（ボール保持）主体の攻撃が必要であると報告されています。このことから、日本チームと今大会で上位に進出したチームとでは、ボールを奪った後の攻撃に大きな違いがあり、特にボール奪取後の前方の

選手へのパス（くさび（足元へ）のパス・裏へのパス）の成功率に違いがあったと考えられます。2010年南アフリカワールドカップ大会において、守備的戦術で成功した日本とベスト4進出国、予選敗退国のボール奪取後の攻撃につなげるための効果的なパスについて明らかにするとともに、日本がさらに上位を目指していくうえで必要と考えられるボール奪取後の攻撃について検討を行いました。

2010FIFA南アフリカワールドカップにおける日本、ベスト4進出国のスペイン、オランダ、ドイツ、ウルグアイと予選敗退国のカメルーン、イタリア、フランス、ナイジェリアのボール奪取から攻撃にいたるまでの様々な項目を分析、比較した結果、以下のような結論を得ました。

- 1) ベスト4に進出した国は、相手の陣地で積極的にボールを奪い、日本よりボール奪取エリアが高い位置で行われていました。攻撃においては、効果的なくさび・裏へのパスを相手ゴール近くで出せていました。
- 2) ベスト4に進出した国は、カウンター

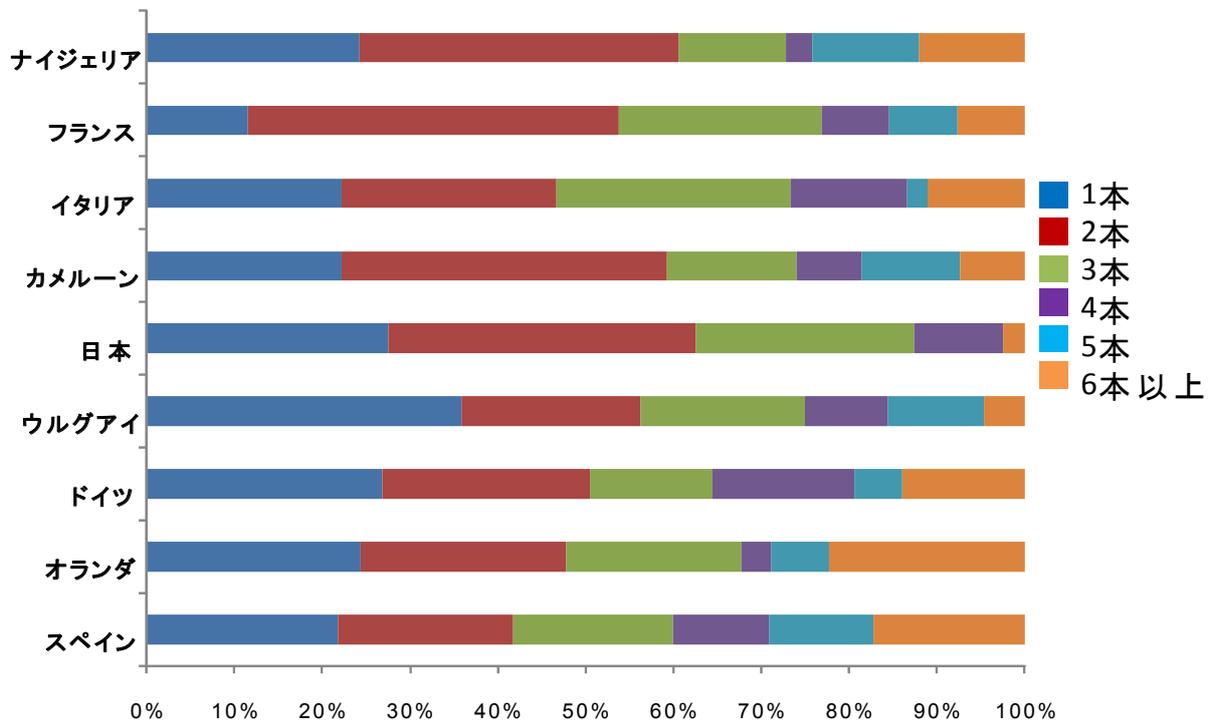


図 くさび・裏へ出るまでの国別のパス本数

攻撃とポゼッションをしながらの攻撃の2つのパターンを試合のなかで効果的に使い分けていましたが、日本はカウンター攻撃が多く、ポゼッションしながらの攻撃はほとんどありませんでした。

- 3) ボール奪取後の攻撃において、相手陣地内の相手ゴールに近い位置からくさび・裏へのパスを出すこと、パスを受けることが効果的であることがわかりました。
- 4) 日本が今後、ワールドカップで上位に進出するためには、ボール奪取をできる限り相手ゴールに近い位置で行い、攻撃においては、ボールを長い時間保持した状態で効果的なくさび・裏へのパ

スが出せるようになることであると考えられます。

これからの研究の展望

サッカー、ラグビー、バスケットボール、ハンドボールなどの競技では、直線的な疾走と相手やボールの状況に合わせて方向を変えて疾走する方向転換走能力が必要とされます。方向転換走について、近年多くの研究がなされていますが、方向転換走能力を決定する要因はまだわかっていません。サッカー部員の方向転換走タイムを測定し、得られたデータをもとに多角的に分析し、方向転換走能力のメカニズムを解明したいと思います。